

高画質・高音質ナンバーワン 圧倒的な臨場感

映像や音のクオリティでプロが選んだ大画面テレビ、パナソニック「LZ2000」シリーズ。
高画質・高音質を支える、ビエラだけの独自技術と、実際のインプレッションを
アワードで審査委員長を務める、大橋伸太郎氏が解説します。



4K有機ELテレビ PANASONIC LZ2000

¥OPEN

SPEC ●チューナー：BS 4K・110度CS
4K×2、地上デジタル×3、BS・110度CSデ
ジタル×3 ●パネル方式：有機EL ●画素数：
3,840×2,160 ●HDMI端子：4系統 ●
音声実用最大出力：170W(77型) / 160W
(65V型) / 150W(55V型) ●外形寸法：
1723W×1079H×350Dmm(77V型) /
1448W×916H×348Dmm(65V型) /
1227W×792H×348Dmm(55V型) ※い
ずれもスタンド含む ●質量：約51.0kg(77V
型) / 約29.5kg(65V型) / 約24.5kg(55V
型) ※いずれもスタンド含む



エンタメを味わい尽くすなら、最高峰のテレビで!

VGP審査委員長 大橋伸太郎

テレビは、いま、大きな変化の時期にあります。デジタル放送ではHD、4K、8Kの解像度が混在し、一方でネット動画からも新しいソースが台頭しています。そんな多種多様なコンテンツを一台で表現しなくてはならないのが現代のテレビです。スマートネスだけでなく、映像の表現力にスケールの大きさ、懐の深さが求められます。視聴環境を選ばない「明るさ」という点では液晶方式に一歩譲るものの、感性に訴えるような高画質、ことに暗いシーンの美しさ、黒の階調表現では自発光のディスプレイである有機EL方式が優位です。そんな有機EL方式のなかで、最高峰の大画面テレビとして選ばれたのが、パナソニックの「LZ2000」シリーズです。

パナソニックは業界で初めて独自の素材と構造によって、パネルの放熱効率を高めることで、映像のコントラスト表現を格段に引き上げることに成功し、他社をリードしました。以降も画質向上の探求は休みを知らず、その最新の成果がLZ2000シリーズに投入されています。

ビエラのフラグシップにふさわしいこだわりは、随所にうかがえます。

パナソニック独自のディスプレイ構造「Dynamicハイコントラスト有機ELディスプレイNEO」と、輝度と色を分離したパネル制御「Dot Contrast パネルコントローラーPro」がLZ2000シリーズの特長ですが、暗部の解析精度が昨季の32倍となり、映像の情報が集中する暗部階調の表現力がさらに向上しています。製品の組み立ての前に一台一台を専用設備で測定カメラを使い、パネルの暗部表現特性のチューニングを行う入念な製造工程は、もはや業務用モニター並みといえるでしょう。そのほか、独自の電流制御アルゴリズムでパネルを駆動して、有機ELセルの発光特性を最大に引き出す「Bright Booster」、センサーによる周辺明るさの検知と連動してディレクターズインテンション(映像製作者の意図)に忠実なバランスで映像を映し出せるように進化した「Netflix画質モード」も、高画質を求めるユーザーにとって、待望の機能といえるでしょう。

音質面にも妥協はありません。よりクリアで厚みのある音を届けるために、テレビの下端に実音源をズラリと並べた新開発の「ラインアレイ

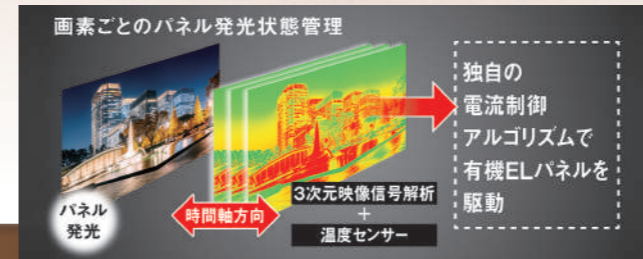
プロが認めた4K有機EL 選ぶなら「ビエラ」

だから高画質!



「Dynamicハイコントラスト 有機ELディスプレイNEO」

新世代の高輝度有機ELパネルに、パナソニック独自のディスプレイ構造※を組み合わせ、放熱効率を高めていることが最大の長。シネマライクな暗部階調表現に加えて、明るい映像のシーンでも色落ちが少なく、色彩豊かな高画質が味わえます。※77LZ2000は除く



パネル制御で輝度アップ 「Bright Booster」

「3次元映像信号解析」と「温度センサー」の働きによって、時間軸の情報も交えながら、パネルの発光状態を画素ごとに管理して、独自のアルゴリズムで電流制御する「Bright Booster」機能を採用。発光性能を高めて、有機ELパネルのポテンシャルを最大限に発揮します。

スピーカー」を搭載。さらに上向きにインネードスピーカー、左右にワイドスピーカー、背面にウーファーを搭載。総合出力は77V型が170W、65V型が160W、55V型が150W。イマーシブサウンド時代の立体音響を、圧倒的な臨場感で、テレビ一台で実現できるのもビエラならではの強みです。

そのほか安心・安全への配慮として、地震や不慮の接触でも倒れにくい「転倒防止スタンド」の採用もうれしいポイントです。

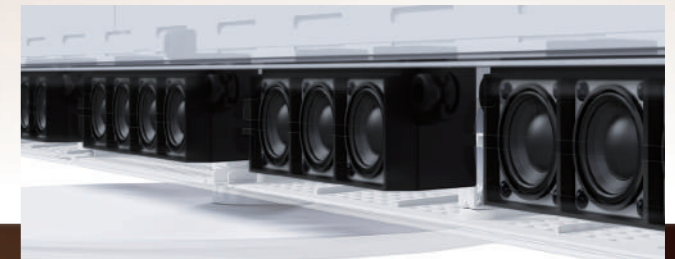
LZ2000の映像を実際に見てみましょう。映像モードは各種用意されますが、オートAIの完成度が高い反面、ユーザーの画質調整範囲も広い「打てば響く」テレビです。テレビ任せでも使いこなしても環

だから高音質!



映画館のような臨場感 「360立体音響サウンドシステム+」

上向きに配置されたインネードスピーカー、横方向の音の広がりを表現するワイドスピーカー、迫力の重低音を生み出すウーファーとバスドラジエーターを搭載。テレビとしては規格外ともいえる仕様で、ドルビーアトモスに対応、臨場感あふれる立体音響を実現しています。



クリアで厚みのある音 「ラインアレイスピーカー」

テレビの下部に前向きに、スピーカーユニットをズラリと一列に配置して強い指向性を持たせた「ラインアレイスピーカー」を搭載しています。(77V型は18個、65V型は16個、55V型は14個)。これによって音の厚みや解像感が、さらに高まりました。

境とソースとの最適解が瞬時にあられ、あらゆるコンテンツへの順応能力が抜群に高いのです。暗部の表現力向上がテーマだけあって、たとえば映画『THE BATMAN-ザ・バットマン-』では、ダークシーンの色域の豊かさと艶っぽい味わいのある黒が印象的。東京の夜景を8Kで撮影した映像は、夜の底まで見通す透明感が素晴らしく、暗部の情報量が豊かで都会の夜のディテールや表情をいきいきと伝えます。映像のスケール、密度に劣らず音質も雄大で、ずっしりとしたピラミッドバランスで、厚く豊かに歪みなく広がります。

放送から映画まで完成度は非常に高く、家庭用テレビの最高峰としてファミリーから映像マニアまで納得させる傑作の誕生です。